



竣工日 1955年4月



プラネタリウム

敗戦後、経済的に厳しい社会状況の中、1955年4月、父母の会（保護者の会）の物心両面の支援を受け、新しい教育のニーズに応えた地上3階（一部4階）地下1階の鉄筋コンクリート造の新校舎、黎明館が竣工した。普通教室に加え図書室・家庭科関連教室（被服教室・調理教室・和洋各作法室・洗濯染色教室）・音楽室・屋上には天体観測用ドームが設備された。命名は生徒・教職員への公募によって候補が3つ挙がり、最終的には建築に多大の尽力があった父母の会に決めていただいたのが「黎明館」である。戦争で荒廃した日本が新しく発展する時代の始まりを願った命名だったのである。新制「同志社女子中学校・高等学校」の象徴的な建物である。

以後この黎明館は3回増築されており、1979年の3回目の増築では電算機教室とプラネタリウムの天文教室が設置された。ドームの直径は6メートル50センチ、1クラスの生徒用として大いに機能してきた。神秘的な夜空に映し出された天の川に多くの生徒が感銘を受けたと思われる。理科の授業の中でも印象深い内容のひとつであったことだろう。

星を見るだけでなく天球の回転がわかりやすいため天文現象の解説に大いに役立ってきた。竣工以来59年を経て耐震化も検討されたがままならず、現在新校舎建築に取りかかっているが、これが完成の暁には黎明館はその使命を終えることになる。

尚志館(同志社香里中学校・高等学校)



竣工日 2012年7月



尚志館・4F情報教室

2011年同志社香里創立60周年記念事業として、生徒の安心・安全を確保し、充実した教育環境を実現するため、紫塩館(特別教室等)、尚志館(高校教室等)、香友館(クラブ棟)を新築、既存建物も耐震化を完了、通学路整備と駐輪場・駐車場の新設、グラウンドの全面人工芝化、テニスコート等新設、友愛館(中学教室)の改修、中庭整備、空調更新等、全面的なキャンパス整備を実施しました。

1958年竣工旧尚志館、1960年竣工明誠館等を取り壊しました。新しい尚志館は明誠館跡地に友愛館と連結する形で2012年7月に竣工、これにより中高の教室が連結し、その間に中高教員室が配置され、中高一貫教育がより一層推進される基盤が整いました。また、国際センターや、教科研究室等も配置されています。

尚志館の名称は、孟子の「何謂尚志、曰、仁義而已矣」(「志を高く持つとは、どのようなことを言うのですか?」孟子「仁義に則ること、これだけです。」)から命名されたものであり、新館にもこの志を高く持つ想いは引き継がれました。1階茶室八重庵には、会津鶴ヶ城敗戦を詠んだ新島八重の和歌、「明日の夜はいづこの誰かながむらんなれしみ城に残す月影」が掛け軸としてかかっています。